

2016年度  
後期科目履修終了時評価  
に対するコメント  
【看護学研究科】

人間環境大学 FD委員会  
看護学部・看護学研究科分科会

## 博士前期課程

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
1	MA0501	看護教育特論M共通	小笠原 知枝	本科目は、看護者としての倫理的態度を持って、看護実践における教育的機能を効果的に果たすために、教育心理学・教育学、看護教育学の基礎的知識を基盤とした看護実践能力とその資質を養うことを目的とした。授業終了時の評価項目には5項目を設定した。受講者から、1)人材育成の方法を幅広い視点から学ぶことができた、2)看護学と教育学の理論に基づいて、看護の本質を考えることができた、3)授業内容に沿った例えを用いてわかりやすかった、4)今まで学生として学ぶことが多かったが、教える立場として考えることができた、などのコメントがあった。
2	MA0701	看護管理特論M	藤原 奈佳子	職場(病院)組織で良質な看護サービスを提供するために、職場内の看護組織、看護チームの運営や組織力の強化に必要な知識・技術を学ぶことを目的とし、3項目の到達目標(評価項目)を設定した。看護実践現場のリーダーとして組織力強化、看護専門職の役割と機能の認識、先行研究と自身の体験事例の統合については、評価が高かった。コメントには、理論を用いて看護の現場での問題の分析と解決策を立案することへの課題があった。
3	MB0201	看護教育学演習M	小笠原・篠崎・伊	本科目は、看護教育学特論Iを踏まえ、授業や演習の展開方法、目的に応じた教育評価や実習評価方法などを学修し、効果的な教育方法や教材の開発方法、及び評価方法などを先行研究やエビデンスに基づいて探究することを目的とした。そして、看護学教師としての教育力を発展させ、自己の研究課題や研究計画に反映させることを目標とした。授業終了時の評価項目には5項目を設定した。受講者から、1)実際に先生方の授業展開を教育者の視点でみることで、実際の教育で行っている工夫を体験することができ参考になった。自分の考えを聴いてもらい時間や授業内容についてディスカッションを行う時間十分取れたのがよかった、などのコメントがあったが、討議には少人数の受講生は必要である。
4	MB2201	看護保健管理学演習M	藤原・永坂	看護管理学領域に関連する課題を中心に、国内外の論文や図書などから情報を収集し、自己の研究課題を導くことを目的とし、3項目の到達目標(評価項目)を設定した。国外文献情報収集についてはやや不十分であったが、自己の研究課題については多角的な分野から資料を読み、知識を高めることができたとのコメントがあった。
5	MB2301	看護保健管理学演習M II	藤原・永坂	フィールドワークをととして、看護管理学および保健管理学領域におけるリーダー、管理者、教育支援者のそれぞれの役割と機能について学ぶことを目的とし、3項目の到達目標(評価項目)を設定した。コメントとして、他施設の看護局長の行動を見学しながらトップマネジメントの実際を学ぶことができた、看護課長にインタビューを行い看護管理で自身と同じような悩みを抱えていることが理解できた、などがあった。
6	MB9101	看護教育管理学特別研究M I	藤原 奈佳子	看護保健管理学分野の専門的視点から科学的思考力と研究能力をもった高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につけることを目的に、実行可能な研究計画書を作成することを目的とし、5項目の到達目標(評価項目)を設定した。社会的ニーズと自己の研究課題と結びつけることができたが、研究計画の具体的な方法の検討が不十分とのコメントがあった。
7	MD9201	成人・高齢者看護学特別研究M II	柴山・小笠原・島内・臼井・安藤	特別研究M2では、特別研究1データ作成した研究計画に沿って、研究データを収集し、妥当なデータ分析を行い、制度の高い結果をもち引き、その解釈をの妥当性を検討し、十分な文献検討により考察と結論を導く、研究論文を完成することが本科目の目的である。授業はゼミ形式で進めた。授業終了時の評価項目には5項目を設定した。受講者から、1)博士後期課程の学生と合同でゼミを行うことで学ぶ内容が深くなったとコメントがあった。完成度の高い修士論文になった。
			島内 節	科目の目的は精度を保つデータ取得であり適切な分析と論文のまとめ修士論文の完成であった。学生は1名、社会人学生であり、勤務が多忙のために文献検索が不十分となりがちで調査にも時間を要し最終論文は何とか完成し、最終試験に合格した。最初に行うべき文献見当が不十分であったことが考察で不十分な部分があったので次年度はこれらを予防できる方策のもとに行う必要がある。

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
8	ME0201	在宅看護学演習M	島内・石井・福田 山本	科目の目的はエビデンスに基づくケア内容と方法の検討から実践力を強化する。参加学生は1名で本科目の教授内容は、2点に集中して行った。1点目は利用者と家族、QOLを高めるケア、アウトカムをとらえる方法とその活用方法、2点目は文献を活用し、国内外の在宅における制度と研究の動向を知ること、かつ自己の研究と照らし合わせて洞察力を高める授業内容とした。その結果、学生は積極的な学習意欲を持ち学ぶことへの努力をしていた。さらに学生からは在宅看護の幅の広さや訪問看護サービスにおけるケアの重要性を学ぶことができたとの感想を得た。授業の改善点については、在宅療養生活を取り巻く環境とQOLを高める看護支援及びケアアウトカムについてさらなる具体的な学習支援と在宅ケアの質管理方法を具体的に考える授業内容を検討する。
9	ME0301	在宅看護学演習MⅡ	福田・山本	在宅看護におけるリーダー能力、管理者能力、現場指導者としての教育能力の強化をめざし、それらの能力を理解し、実践で知識・技能・コミュニケーション力を含めた、計画的・効果的な実践の展開方法を学ぶことを目的に演習と臨地実習(7日間)を実施した。演習では、実習に必要な在宅管理や実習指導者の役割、地域に関連した訪問看護の意義などを学習し、その上で実習計画を学生自身が立案し、実習に臨んだ。実習では、訪問看護ステーションのリーダー、管理者の役割、実習生の指導方法の見学、地域の関わりでは障害者のシェアハウスでの看護実践や難病患者の家族会、地域ケア提供者研修会等に参加し、多くの体験を通して訪問看護を学ぶ内容とした。評価項目は3項目で評価した。その結果、訪問看護リーダーの実践、看護管理者の役割の実際が理解でき、さらに地域で暮らす障害者ケアに参加し、「生活の視点から実践する看護」を学ぶことができていた。次年度の課題は、教育支援の実践について、実際の実習では関わりが少なく、理解が不足していた。次年度は、訪問看護ステーション等の教育支援・研修などに参加できるよう実習計画を検討する。
10	ME9101	広域看護学特別研究MⅠ	福田 由紀子	在宅看護の分野で広い視点が持てるよう、専門的で科学的思考力と研究能力を有する看護の実践的リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職となるため、必要な研究能力を身に付けることを目的として、適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究倫理委員会に提出できるようにすることである。評価：5項目。研究のテーマ決定のため、まず研究論文のクリティークを行い、研究倫理について学習した。自分の研究テーマを絞りながら、研究方法について教授した。今年度は、研究計画書を発表し、倫理審査書類を作成した。受講者のコメント：多くの論文を読み、研究計画書を作成した。その中で、研究方法やデータの分析方法(統計)が難しい、理解できていないとの意見があったため、来年度は、研究MⅠの授業の中で論文を活用して分析等の学習を進めていけるように計画を立てる。
11	ME9201	広域看護学特別研究MⅡ	島内・石井・三徳・西川・郷良・福田	授業の目的：MⅠの研究計画に沿って、研究倫理委員会の承諾を得たのちに、研究データを収集し、得られたデータの分析を行い、結果の解釈を検討し、論文を作成することである。評価：6項目。研究倫理委員会の承諾後、調査・分析、論文を作成した。分析から論文作成までに、多くの時間を要し、計画のように進まず、スケジュールはタイトであった。学生からも、すべてのことがはじめてであり、分析・結果・考察と論文を作成していくために多くに時間と指導をうけたとあり、今後は、論文を作成までの計画を立て、その計画が実施できるよう指導し、実施可能なスケジュールの検討を行いたい。

## 博士後期課程

NO	授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
1	DB0201	看護教育学演習D	小笠原・篠崎・伊藤	本科目の目的は、看護教育学や看護の基盤となる領域の概念・理論・モデルを創造することに貢献する研究力を高めるために、概念分析、システマティックレビュー、推測統計などを含む質的・量的研究プロセスを修得することである。授業終了時の評価項目には5項目を設定した。受講者から、学生の研究計画内容に結びつけた授業内容にしてもらい、具体的でとてもお理解しやすかったとのコメントがあった。受講生が一人であったため、学生の習得レベル、スピードに合わせることができた。
2	DB9201	看護教育管理学特別研究DⅡ	小笠原 知枝	特別研究の目的は自立した研究者として看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。本科目では、特別研究DⅠで行った研究計画に沿って研究を進め、論文を作成し、学会誌に投稿することを目標とし、授業はゼミ形式で進めた。授業終了時の評価項目には6項目を設定した。受講者から、定期的なゼミで互いの研究について討議し大きな学びとなったとコメントがあった。質的研究結果をケアリング学会で発表した。
			藤原 奈佳子	特別研究DⅠで行った研究計画に沿って研究を進めるために、6項目の到達目標(評価項目)を設定した。分析結果に基づいて考察と結論を適切に導くことや、論旨の一貫性を検討することに対しては、今後の研究進捗でさらに深めてゆく必要がある。
	DC0201	小児看護学演習D	森・倉田・深谷	授業目的は、小児看護研究の国際的動向・今日的課題に関連する文献検索とクリティークを行い、研究課題の探求・進め方の基盤にする。この目的の到達目標に対し、授業評価は、平均4点(最高点)で、コメントは文献検討したことを議論でき、有意義であった。今後も研究課題を中心に文献検討を行うが、概念・理論の探求・分析・展開の検討にも重点をおき、研究の進め方に役立てたいと考えている。
	DC9101	発達看護学特別研究DⅠ	森 美智子	研究テーマと目的について、社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を明確にし、研究テーマ、目的、研究方法の一貫性を検討した研究計画書を作成する。この到達目標に対し、授業評価は、4点満点中、平均点は4点であり、コメントは研究のプロセスについて適格なアドバイスをいただけた。次年度も同様に進める予定である。
7	DD9201	成人・高齢者看護学特別研究DⅡ	小笠原 知枝	特別研究の目的は自立した研究者として看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。本科目では、特別研究DⅠで行った研究計画に沿って研究を進め、論文を作成し、学会誌に投稿することを目標とし、授業はゼミ形式で進めた。授業終了時の評価項目には6項目を設定した。受講者から、ゼミ形式であったため、他の学生の研究内容からも自分の研究に繋げ進めることができたとのコメントがあった。質的研究結果をケアリング学会で発表した。
10	DE0201	在宅看護学演習D	島内 他	科目の目的は在宅ケアの国内外の制度、ケアの質保証のためにケアプログラム作成の研究と実践を含めた具体例をエビデンスに基づいて信頼性と妥当性を確認する方法について行った。 学生は2名で到達度には学生間で相違がみられた。到達目標は大体到達していたが「費用対効果の分析法とケアの質管理の方法」が到達度がやや低い。これについては28年度に学生研究指導費を用いて非常勤教員による補講も加えて具体例で内容充実の手続きをとった。次年度は上記に基づき到達度がやや低い内容の強化を図る必要がある。
11	DE2201	地域看護学演習D	三徳・西川・山田	学生らから「地域の人々の健康レベルを把握するための地区診断を対象集団に焦点を合わせて行うことの必要性和方法及び分析方法を具体的に演習したこと、さらにソーシャルキャピタルについて海外先行研究論文のクリティークから、今後の地域看護活動支援の示唆を得ることができたことはよかった」との評価を得た。今後も将来を見据えた論文を活用した演習を行っていくこととしたい。

授業コード	授業科目の名称	担当教員	コメント
12	DE9101 広域看護学特別研究D I	島内 節	科目の目的は博士論文の研究計画書を作成するために研究テーマ・目的・方法・分析方法について中間発表と年度末に計画書の完成をめざすことであった。学生は2名で、6つの到達目標は大体到達であったが研究結果の分析法の計画は不十分な点が見られるので、これを強化する教育方法を検討する必要がある。研究D IIにおいてもこの部分は重ねて指導をしていくつもりである。
13		三徳 和子	学生らから「地域看護活動の問題意識から、研究目的と方法及び解析方法等研究全般について研究計画書を作成し、中間発表をすることができたことにより、学びが大きかった」との感想が寄せられた。今後とも研究実施に向けての指導を進めていくこととしたい。
14	DE9201 広域看護学特別研究D II	島内 節	科目の目的は博士論文計画の倫理審査を終えて精度を保つデータ収集を行い論文の中間発表を行い論文をまとめる準備を終えることである。学生は1名で、結果の分析途中で中間発表を終えた。国際発表の準備をして、採択されたので発表できる段階になっている。スケジュールに沿って進める手順がよく理解できたことである。調査において現場の調整とデータ収集に時間を要したのでまだ分析中である。次年度はデータ収集について効果的に進める必要がある。
15		三徳 和子	学生から、家族の病気と本人の体調不良もあり、D1の研究計画書発表は経たが研究計画の倫理審査申請ができなかったことに対する反省が寄せられた。今後ともプライベートではあるが学生の学習環境が改善したら、研究計画の実施に向けて指導を進めていくこととする。